



二人三脚で歩いてきた長男の幸輝さん(左)と幸利さん



上/前田幸利さんが育てているナスビ
下/朝になると星形のようなナスビの花が咲きます

スビ栽培を続けてもよかったけど、どうしても妻を思い出してね。そうして仕事に没頭することで悲しみを乗り越え、やがて長男の幸輝さんが右腕となると事業は軌道に乗り、今や全国でも有数の特殊技術を持つ会社へと成長しました。

「お母さんのがんばりがあったから、今があるね」と言った幸輝さんの言葉が染みた幸利さんは、今春か



江戸時代の武家屋敷の雰田気が今に残っています

スカイブルーの空に一筆書きをしたような筋雲。もう秋ですね。いつも、小谷を訪れるたびに立ち寄らせていただくのが林家です。江戸時代に建てられた武家屋敷のたた

翼を広げて



vol.52
おやつ小谷編



北から南へ、家々の屋根が流れるような小谷集落のたたずまい。ここにはしっかりとした地域のコミュニティが育まれています。3回目となる小谷地区の散歩では、お久しぶりの笑顔や、胸に染みる親子の絆に触れました。

小谷地区では昔から、地域の子どもたちが空手や剣道などの武術に親しむ伝統が根付いています。33年前に開設された「空手道空心会・津森空手道部」では現在、4歳児から中学生までの男女20人が所属しています。普段の稽古は津森小の体育館で行われていますが、暑い時期は町総合体育館の武道場に場所を変えます。道着姿の子どもたちは、突き、蹴りの基本稽古から、形、組手と真

育まれる空手道



サックス演奏が趣味の幸利さんのために幸輝さんが用意したスタジオ

ら再びナスビ栽培を始めました。丹精を込めたビニールハウスの中には、薄紫色のナスビの花がほほ笑むように咲いていました。

「過酷な訓練の中、姉や母のような林さんの存在に、どんなに癒やされたことか」と皆さん口をそろえます。「車をちよくちよく借りては『ガソリン代は出世払いで』と拝み倒して、未だにお返しできてません」という思い出話も飛び出します。

「こうしたご縁のおかげか、孫息子が航空自衛隊パイロットとしてが

ずまいは、3年前に国の登録有形文化財に指定されました。その日、林家にはにぎやかな笑い声が響き渡っていました。集まっていたのは、国際線パイロットや操縦士教官などの任務に従事している皆さん。主の林富美子さんは、かつて阿蘇くまもと空港近くに開設されていた全日空熊本乗員訓練所で、パイロットの卵たちの胃袋を満たしてきました。

「過酷な訓練の中、姉や母のような林さんの存在に、どんなに癒やされたことか」と皆さん口をそろえます。「車をちよくちよく借りては『ガソリン代は出世払いで』と拝み倒して、未だにお返しできてません」という思い出話も飛び出します。

「こうしたご縁のおかげか、孫息子が航空自衛隊パイロットとしてが

剣なまなざしで取り組んでいます。「道場では靴をそろえる、きちんとあいさつを交わす、仲間を大切にすることも教えます」と道場長の土田克己さん。同会の「空手道五箇条」はこうです。「人格完成に努むること。誠の道を守ること。努力の精神を養うこと。礼儀を重んずること。血気の勇を戒めること」。その教訓が子どもたちの胸に刻まれています。

おや? その中に見覚えのある顔が…。令和4(2022)年3月号でご紹介した渡邊君と京君のきょうだいです。畑の中を長靴をはいて走り回っていた幼い2人でしたが、道着姿も板についてすっかりと少年に。筆者も年を取るはずです。



「どの子もいい子ばかりです」と愛情を持って指導する道場長の土田さん



かつこよく空手の形を決めてくれた中学生の森川希姫さん



下列中央の林さん(ピンクの服)を囲んで懐かしい顔ぶれがそろいました

んばっています。飛行機を見上げながらいつも、訓練生の頃に出会ったパイロットの皆さんの勇姿や孫息子の頼もしい姿を思うんです」と林さんは幸せそうにほほ笑みました。

ナスビの花



木山川に架かる小谷橋。川沿いを散歩する人の姿も見られます

勇退を機に25年ぶりにナスビ栽培を再開したという前田幸利さん。それには、ある理由がありました。40年ほど前、スイカ農家を営んでいた幸利さんは、妻の文美さんの希望でナスビ栽培に転作します。夫婦で情熱を注ぎ「まだまだこれから」という時でした。最愛の文美さんが亡くなります。今から25年前のことです。「心の中にぽっかりと穴が空きました」と幸利さんはしみじみと当時を思い出します。

文美さんが逝ってから半年後のことでした。幸利さんは一念発起し、道路の特殊工事の仕事へ着手。「ナ



①稽古が終わるとカメラの前に集まって変顔を披露する子どもたち。②4人中3人がちよんまげ団子のヘアスタイル。流行ってるのかな? ③笑顔がとっても可愛い小5の山本美海さん。④「よっしゃーポーズ」で決めてくれた「空手道空心会・津森空手道部」のみなさん